

1 学校評価（教職員自己評価）より

(1) 実施時期と方法

- 7月下旬（上半期）と12月下旬（下半期）の年間2回実施。
- 10領域、51項目をA・B・C・Dの4段階及び自由記述により評価。
- C・Dの評価については、改善案を提示する。
- 関連領域についてまず2部会で話し合い、その後、検討事項について職員会議において全教職員で話し合う。

(2) 自己評価（下半期）まとめ

	自己項目		評 価 (%)			
			A	B	C	D
教育課程	各教科等の授業（時数の確保、内容の指導）の充実を図れたか。		42	54	4	0
	校時表・時間割・月行事・週行事に無理はなかったか。		42	54	4	0
	週案を活用し、教科の時間のバランスをとりながら授業を計画的に行うことができたか。		42	54	4	0
	学校の教育目標・学級目標・教科経営目標等にせまれる教育活動ができたか。（授業のユニバーサルデザイン化）		31	69	0	0
研修	研修計画は適切であったか。		31	62	7	0
	本校の研究主題や自己の研究テーマにそって研修が積み上げられたか。		35	65	0	0
	教材研究は十分に行えたか。		39	54	7	0
	研究授業・協議を通して、自分の力量を高めることができたか。		42	58	0	0
	専科・T T等の連携はよかったか。		50	50	0	0
生徒指導	児童が社会生活において必要となる資質や能力を高めることができるよう、指導することができたか。		15	77	8	0
	なかよし5カ条を身に付けるように指導し、規範意識を高めることができたか。	元気にあいさつ	12	81	7	0
		「はいっ」の返事	8	74	8	0
		履物の整頓	16	72	12	0
		立腰	4	77	19	0
		黙って行動	0	85	15	0
	いじめ・不登校問題・その他の問題行動に対し、未然防止に努めることができたか。		12	85	3	0
	いじめ、不登校問題、その他の問題行動の事案が起こったとき、迅速に対応できたか。		42	54	4	0
	配慮を要する児童に対して、有効な手立てをとることができたか。		27	69	4	0
報告・連絡・相談を適切に行うことができたか。		42	54	4	0	

	自己項目		評価 (%)			
			A	B	C	D
人権・同和教育	人権意識を高めるための研修に努めたか。		46	54	0	0
	各教科等それぞれの特質に応じ、計画的・系統的な学習を推進できたか。		35	65	0	0
	自他の大切さを認めながら、支え合い、助け合う仲間づくりに努めたか。		27	69	4	0
	なかよしの時間を計画的に進めることができたか。		18	77	5	0
	道徳ファイルを有効に活用できたか。		13	75	12	0
特別活動	学級活動において、話し合い活動や係活動を活発に行うことができたか。		6	94	0	0
	行事等への参加で、特活のねらいが達成されたか。		39	61	0	0
	特別活動は、児童主体で活動を進めていくものだということを児童に意識付けたか。		24	72	4	0
道徳教育	年間計画通りに実施できたか。		50	50	0	0
	授業のユニバーサルデザイン化の視点を取り入れた授業づくりに努めたか。		33	67	0	0
	「考え、議論する道徳」への転換を目指し、授業改善に努めているか。		6	94	0	0
	特別の教科・道徳についての自己研修に努めたか。		27	73	0	0
	道徳的環境の整備に努めているか。(教室・校舎内掲示等)		35	65	0	0
	道徳科の授業での取組の様子を学年・学級だより、道徳ファイルを通して、保護者に積極的に発信できたか。		18	77	5	0
	道徳科の評価に向けて、一人一人の見取りを行うことができたか。		24	76	0	0
特別支援教育	特別支援学級の児童との交流が主体的に図られているか。	担任(教師自身)	33	67	0	0
		クラスの児童	22	78	0	0
	学級内にいる支援が必要な子の学習や行動のつまずきに気づき、適切な支援をすることができたか。		20	80	0	0
	特別支援教育コーディネーターとの連携が図られたか。		31	69	0	0
	学年間で、支援が必要な児童の情報が共有できたか。		46	54	0	0
情報教育	個人情報・成績等を机上に置きっぱなしにしていないか。		46	50	4	0
	校務系のデータが外に出ないように守られているか。		69	31	0	0
	児童の1人1台端末が安全に保管されているか。		39	58	3	0
	1人1台端末を活用し、双方向的、協働的な学習を日常的に行うことができたか。		31	69	0	0
	プログラミング教育を、年間指導計画に基づいて計画的に行っているか。		12	88	0	0
	発達段階に応じたデジタル・シティズンシップ教育を、学級で指導しているか。		31	65	4	0
保健	健康観察を十分に行い、朝の会終了後、提出できたか。		76	24	0	0
	学校管理下における傷病について、家庭への連絡を適切に行ったか。		58	42	0	0
	けが防止のために呼び掛けができたか。		50	50	0	0
	環境衛生面に気を配って、教育活動を行えたか。 (手洗い、うがい、ハンカチ、ティッシュ、姿勢、照明等)		35	62	3	0
食育	衛生点検、適切な配膳、マナーなど、日常的な給食指導が継続的に実施できたか。		56	36	8	0
	学級担任と栄養教諭が連携して食に関する指導(授業・個別的な相談指導)を計画的に実施できたか。		70	30	0	0

(3) 成果(○)と課題及び改善策等(◆)

教育課程	○ 各学期とも学期当初はゆとりを持たせた校時や行事予定を展開したことで、教師も児童も良いスタートが切れた。 ◆ 今後も授業時数など丁寧に計上し、時数を確保しながら調整を行っていく。行事予定も計画していき、無理のない教育課程を展開する。
研修	○ リーディング DX 公開授業に向けて、様々な校内研修を行うことで、教師一人一人の力量が高まるとともに、学びを深めることができた。 ○ ICT 支援員が手厚いサポートをしてくださり、多くの学びを得ることができた。 ◆ 基礎研修該当の教員も多いため、部会による研究推進など、手法の工夫も必要である。また、主体的に学び合う児童の育成に向けて、協働的な学習を行う時間を確保する。
生徒指導	○ 昨年度に続き、教育支援センターや子ども支援室等、関係機関と連携をすることで、児童や保護者に対するサポートをすることができている。また、いじめ問題については全校で見守りができるよう、学年団や全教職員で情報共有する時間を確保することができた。 ◆ 「なかよし5カ条」については全体的に課題である。なぜ5カ条を進めていくか、教師も児童もしっかり意識できるようにする必要がある。
教育 人権・同和	○ なかよしファイルやいいねカードなど、学校全体で取り組むことができた。 ◆ 道徳ファイルの活用やなかよしファイルの保護者への紹介など、個人懇談の待ち時間など、保護者が来校しているタイミングで見てもらおうということも考えていきたい。
特別活動	○ 今年度も適当な回数と時間で全校集会が実施できた。また、全校集会前の待ち時間や移動も静かに行動できるようになってきている。 ◆ 学級活動での話し合い活動が十分できていないので、年間指導計画を確認し、継続して取り組んでいけるようにする。
道徳教育	○ P T A 研究大会では人権・同和教育主任を中心に、取組に対する共通認識や、様々な形で保護者啓発ができていた。 ○ 道徳コーナーが以前に比べ工夫され、活用している様子が見られるようになった。 ◆ 保護者啓発の機会を大切に、家庭と学校がともに児童を見守り、育てていく道徳教育を展開していく。
特別支援教育	○ 支援が必要な児童に対して、支援会議の実施などコーディネーターや教育支援員の先生方と情報共有をすることで、適切な支援を推進することができた。 ◆ 支援が必要な児童も増加し、支援方法や対応も難しくなっている。支援計画・指導計画を基にして、それぞれの児童に合わせた支援を意識統一して行っていくことが必要である。
情報教育	○ 昨年度に引き続き、リーディング DX 公開授業に向け、校内研修が充実し、学んだことを授業に生かすことができた。また、個人や学年で工夫して取り組むことができている。 ◆ 今後も SNS のトラブルなどに迅速に対応できるよう、職員研修だけでなく児童や保護者対象にデジタル・シティズンシップ教育に継続して取り組んでいく。
学校保健	○ 学校保健委員会は学校歯科医による専門的な内容を分かりやすく講話くださり、大変良かった。今後も児童のよりよい生活習慣の確立のために継続して取り組む。 ◆ 怪我が発生した際には、原因を共有したり、場合によっては児童への注意喚起を行うなど、未然防止につなげる活動を継続していく。
食育	○ 栄養教諭と学級担任が連携して動画なども活用し、日常的・計画的に給食指導が実施でき、今年度は県学校給食優良校を受賞することができた。 ◆ 「給食指導の流れチェックポイント」が十分定着しなかった学級がある。来年度は早期に定着できるよう、全校統一で指導を進めていくとともに、学期ごとに取組内容の確認を再度行うなど、学校全体で取り組んでいけるようにする。